

潮流

日本経済はデフレの無限ループから脱出できるか

調査第二部部長 南 武志

無限ループとそこからの脱出劇（いわゆる「ループもの」というのは、物語の世界では鉄板ネタである。NHKのBSプレミアムでは不定期で『全〇〇大投票』というランキング番組が放映されるが、昨秋は『全るーみっくアニメ大投票』が放映された。筆者も学生時代は毎週水曜日には「少年サンデー」で「うる星やつら」を、隔週金曜日には「ビッグコミックスピリッツ」で「めぞん一刻」を愛読していたので、懐かしく拝見した。筆者の一押しは押井守監督「うる星やつら2 ビーティフル・ドリーマー」だったのだが、『大投票』作品部門では第5位だった。この物語は、今日と変わらぬ楽しい日が永遠に続いてほしいという少女の純粋な夢がかなえられた結果、学園祭の前日の喧騒が延々繰り返されるところからスタートする。

ほかにも代表的なループものを題材にした作品としては、「魔法少女まどか☆マギカ」（主人公が悲惨な末路をたどることが運命づけられている魔法少女にならないよう、彼女の親友が何度も出会いから繰り返したことが後に明らかになる）、「STEINS ; GATE」（幼馴染の少女の死という絶望的未来を回避すべく世界線を幾度となく移動するが、ようやくたどり着いた先でも別の絶望が待っている）などがあるが、最強は京都アニメーションが作成した「涼宮ハルヒの憂鬱」（原作：谷川流）の第12～19話の『エンドレスエイト』で異論はないだろう。その内容は、主人公の願望によって8月17～31日の夏休み最後の15日間で15,500回以上も繰り返されるのだが、つまりは主人公たちがそのループから脱出するのに630年以上かかった計算になる。また、TVではほぼ同じ内容（細かい部分は違うが）が8週連続、つまり2ヶ月にわたって放映されたことも衝撃で、一部のファンはもっと他のエピソードを充実させると激怒したらしい。

さて、最近の日本経済はデフレ的ではなくなったようだが、デフレ再来がないとも言い切れない状況であり、「デフレ→政策発動→途中で逆噴射→デフレ…」という無限ループから脱却できたわけではない。また、これだけ緩和長期化の弊害ばかりが指摘されると、3年後の黒田総裁の任期終了後、日銀が再びゼロインフレを志向し始めるかもしれない。

政府は3年ぶりに大規模な経済対策を策定し、日銀はその効果を期待しているが、デフレ脱却の最後のカギはやはり「賃金上昇」が握っていると考える。しかし、企業経営者は相変わらず人件費の抑制に躍起であり、50代となったバブル世代の「追い出し」に乗り出す大企業も散見される。最近では「働かないおじさん」がネット上で若者から批判されている。一方、日本の雇用慣行を踏まえれば、「働かないおじさん」の給与が割高なのは、若年時には生産性以下の賃金しかもらっていないことの代償であって、決して本人たちのせいではない。最初から生産性に見合う給与を支払っていれば済んだ話であり、要するに賃金体系の問題なのである。さらに、このままだと、数十年後には、今現在「働かないおじさん」を揶揄している若者も同じ立場になりかねない。これもまた一種のループではないか。

デフレ脱却のため、冗談抜きで、毎年、一斉に賃金とモノ・サービスの価格を2%ほど上げる社会実験をしてみてもどうだろうか。もちろん、「鋼の錬金術師」の如く、デフレからの完全脱却には何か相応の対価が求められるのが世の理なのであろうが…。